

愛知県感染症情報

平成 14 年第 13 週 (3 月第 4 週)

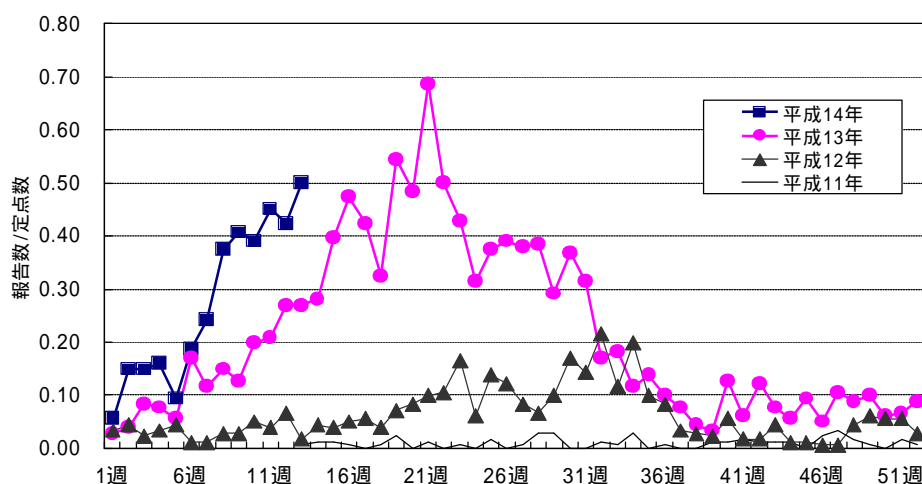
(コメント)

インフルエンザの患者報告数については、今週で警報基準値を下回りました。

麻疹、流行性耳下腺炎は増加傾向にありますので注意して下さい。

麻疹の予防方法については、愛知県衛生研究所のホームページ

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>) をご覧ください。



麻疹 (成人麻疹をのぞく)(名古屋市を含む。平成11年は、13週(4月1日~)から)

(定点の先生方からのコメント)

- 尾張西部地区
 - ・ 水痘 小流行中 2名ワクチン接種しているも罹患
インフルエンザは激減
(一宮市 後藤小児科医院)
 - ・ O1 8ヵ月女1名、O6 4歳女1名、O18 35歳女1名
(尾西市 城後小児科)
 - ・ 高熱と咳を主訴とする上気道炎が見られます。病原大腸菌O126 1人(1歳)、サルモネラ1人(8歳)。手足口病が1人ありました。
(犬山市 武内医院)
 - ・ 感染性胃腸炎の流行が続いています。麻疹 1名(1歳4月、ワクチン未接種)
(江南市 みやぐちこどもクリニック)
 - ・ 急性胃腸炎多い。症状強く、元気のない嘔吐の続く子が多いようです。麻疹が続発しています。
(岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック)

- ・ 病原大腸菌 女、55歳 ペロ毒素(-)
(師勝町 医療法人師勝クリニック)
- ・ 26歳、男 インフルエンザA型(+)
(師勝町 田中クリニック)
- ・ 1歳10か月女、9か月女、1歳2か月男 ロタウイルス(+)でした。
(春日町 丹羽医院)
- 尾張東部地区
 - ・ ロタウイルスを含めたウイルス性胃腸炎が多く見られます。
A型インフルエンザはほとんどなくなりました。
マイコプラズマ肺炎2名(8歳男、5歳男)。
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
 - ・ インフルエンザはB型がまだ散発で見られます。
マイコプラズマ感染症、相変わらず全年齢にわたって多く見られます。
今週は水痘が増加傾向です。その他、1~2日の発熱に嘔吐を伴う症例が目立ちました。
(尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院)
 - ・ 3/27 22歳男 *Campylobacter jejuni*感染症。
(豊明市 豊明団地診療所)
 - ・ ロタウイルス(+)11か月男と3歳男にみられました。急性肺炎、5歳女がありました。
(春日井市 かちがわ北病院)
 - ・ おたふくと水痘の小流行つづいています。ロタ胃腸炎はあいかわらず多くみられました。
(春日井市 朝宮こどもクリニック)
 - ・ インフルエンザは極めて少なくなりました。
(小牧市 志水こどもクリニック)
 - ・ インフルエンザ減少しましたが、まだインフルA少しつづいています。麻疹あり。
(小牧市 小牧市民病院)
- 西三河地区
 - ・ 病原大腸菌(O6)8か月女
アデノウイルス感染症(6歳女) アデノチェック*(+)
(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
*アデノチェック:免疫クロマト法によるアデノウイルス抗原迅速キット。
 - ・ カンピロバクター 2歳男 9歳男
ムンプス (1~2日高熱を伴う症例が多い)
(豊田市 医療法人やふそ小児科)
 - ・ ロタウイルス 1歳男、4歳女
(岡崎市 医療法人深田小児科)
 - ・ 8歳男病原性大腸菌O1
2歳女病原性大腸菌O6
(岡崎市 花田こどもクリニック)
 - ・ 3歳男インフルエンザB、4歳男インフルエンザA+B
(岡崎市 にいのみ小児科)
 - ・ インフルエンザA型4名、B型1名
(岡崎市 医療法人川島小児科水野医院)
 - ・ 今週のインフルエンザはA型2歳女1名だけとなりました。
(岡崎市 粟屋医院)

- ・ A型2名
（岡崎市 村山医院）
- ・ 2歳男1名 アデノチェック陽性
（知立市 宮谷クリニック）
- ・ インフルエンザA型 3歳男（インフルA Bクイック* 陽性、ワクチン接種済）
（西尾市 やすい小児科）
* インフル A・B クイック：A 型及び B 型インフルエンザウイルスを検出する迅速診断キットの一種。
- ・ 6か月～1歳女 ロタウイルス感染症
（西尾市 山岸クリニック）
- ・ インフル A・B クイック陽性 A - 2名
（西加茂郡 三好町立三好病院）
- 東三河地区
- ・ インフルA Bクイック陽性 A - 2歳女1名 B - 2歳女1名
（豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科）

（1～3類感染症の発生状況）

- 腸管出血性大腸菌感染症1名
- ・ 刈谷保健所から報告の57歳男。3/25発病、3/25初診、3/27診定。
菌型はO157 VT1(+)。

（全数把握の4類感染症の発生状況）

- アメーバ赤痢患者1名。
- クロイツフェルト・ヤコブ病患者1名。

第11週（14年3月11日～3月17日）の4類感染症の全国状況

麻疹は過去5年間の同時期と比較して定点当たり報告数が多い状態が続いており、都道府県別では沖縄県1.4、宮崎県1.3などの報告がある（詳細は「注目すべき感染症」参照）。流行性耳下腺炎は、最近10年間の当該週と比較して最大の定点当たり報告数が続いており、福井県7.0、福岡県4.3、佐賀県4.2などの報告がある。咽頭結膜熱は、最近10年間の当該週と比較して最大の定点当たり報告数が2000年第41週から続いており、夏の本格的なシーズンに向けて増加中である。都道府県別では滋賀県0.9、山口県0.8、愛知県0.6などの報告がある。伝染性紅斑、流行性角結膜炎などの定点当たり報告数は、過去5年間の同時期と比較してやや多くなっている。（Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供）

お休みの子供達で乗物が混雑するようになりました。菜の花に始まって連翹、木蓮、桜、と春が駆足で通り過ぎようとしています。いつも貴重な情報を有難うございます。3 月前半～後半のまとめをお送りします。

1.名古屋市:全市的にインフルエンザの流行は下火になり、A 型や B 型の散発をみるだけになりました。名鉄病院宮津先生からはワクチン未接種児の麻疹が時々(母親が罹患して脳炎合併例あり)、マイコプラズマ散発、第一日赤有吉先生からはインフルエンザと感染性胃腸炎(共に入院例目立つ)、麻疹多発中(入院目立つ)、城北病院渡辺先生からはインフルエンザ B がまだ多く RS ウイルス感染症による喘息性気管支炎も目立つ、第二日赤岩佐先生からはインフルエンザは消失したがロタ腸炎が多い、千種区今枝先生からは殆どがウイルス性の感染性胃腸炎多く、急性気管支炎時々、三菱病院岩間先生からは A 型インフルエンザ(B 型は減少)、感冒性嘔吐下痢症、病原性大腸菌 O1、O25 による感染性腸炎、気管支肺炎、中京病院柴田先生からはインフルエンザ散発中で麻疹による入院増加、労災病院山田先生からは麻疹の入院が目立ち、RS ウイルスの細気管支炎、インフルエンザ A、B(熱性痙攣目立つ)、ロタウイルス腸炎、溶連菌感染症、百日咳の入院あり、大同病院水野先生からはインフルエンザが続き(迅速診断陰性でもウイルス分離陽性例あり)A 型に熱性痙攣が多いようだ、ロタ腸炎、麻疹の流行が続き溶連菌感染症が多発、腎炎やアレルギー性紫斑病の合併症あり、などのお手紙をいただきました。

2.尾張地区:犬山市武内先生からは感染性胃腸炎がやや多発、手足口病と水痘散発中、江南市昭和病院西村先生からは嘔吐下痢症、溶連菌感染症、ロタウイルス腸炎、A 型インフルエンザが目立つ、常滑市民病院上田先生からはロタウイルスを含むウイルス性腸炎、溶連菌感染症、インフルエンザ、麻疹が目立つとのことのお手紙でした。

3.三河地区:豊田地区ではインフルエンザは減少傾向ですが麻疹の発生が目立ち要入院例、小学生・中学生などの年長児の罹患が目立っています。岡崎市民病院糸洲先生からはまだインフルエンザ発生中でロタとロタ以外の嘔吐主体の胃腸炎目立つ、知立市近藤先生からはロタ下痢症多発、水痘>ムンプス、インフル(多分 A)2 例、刈谷市田和先生からはワクチン未接種の麻疹 1 例あり、感染性胃腸炎散発中、碧南市永井先生からは乳幼児の嘔吐下痢症が目立つ、豊橋市からは感染性胃腸炎、ロタウイルス腸炎、ムンプス、水痘、年長児・学童の気管支炎が目立つとのことのお手紙でした(長屋先生、宮澤先生)。有難うございました。

2002 年 2 月 15 日号(77 巻 7 号)

香港。インフルエンザ A(H5)。中央市場と 2 ヶ所の地方養鶏所で鶏の死亡が急増。インフルエンザ A(H5)分離陽性。ヒトの感染例は未報告であるが WHO は監視中。

エボラ出血熱:ガボンとコンゴの状況。2 月 5 日、ガボン政府は 49 例(死亡 42 例)を報告。

2 月 1 日、コンゴからガボンの国境地帯で 20 例(死亡 12 例)発生報告。

麻疹:麻疹死亡減少世界戦略。第一部。2000-2001。40 年以上にわたる努力にもかかわらず、2000 年時点で世界の麻疹発生数は 3-4 千万、5 歳以下の世界年間小児死亡の 5%を占めている(2000 年の世界の 15 歳以下のワクチンで予防可能な疾患による死亡 1,756,350 例:麻疹 44%、百日咳 17%、新生児破傷風 11%)。麻疹対策として以下が重視される。

生後 9 ヶ月すぎに出来るだけ早く接種する。 ワクチン接種率の向上(アフリカや東南アジア地区では 55%の低さ。世界地図あり)。 2 回接種法の普及(世界地図あり。WHO は 2 回法をすすめているが、途上国を中心として 1 回法の地区が多い)。 報告と監視網の整備。

インフルエンザ(02 年 2 月):ベラルーシュ、カナダ、クロアチア、フィンランド、アイスランド、イスラエル、イタリア、ノルウェー、スイス、米合衆国。いずれも A 型(H3N2 主体、一部 B 型)。

2 月 1 日-7 日届出。コレラ:タンザニア。インド。

2002 年 2 月 22 日号(77 巻 8 号)

髄膜炎菌性髄膜炎:コンゴ共和国。1 月 2 日までに 893 例(死亡 104 例)、A 型。A 型ワクチンを流行地区で緊急接種。住民の 70%にあたる 413,500 名が接種をうけ、発生数は減少中。発生数の監視と住民教育が実施されている。

リ-シュマニア症:パキスタン(近況)。WHO と同国厚生省は発生地である北西部で調査実施。5,000 例の報告。砂蠅による人-人な感染が主体で動物は無関係。

麻疹:麻疹死亡減少世界戦略。第二部。2000-2001。第一部に続き重要な対策がまとめられている。麻疹の発生動向調査と実験室診断検査網:ポリオ根絶で実施されている調査網、検査網と平行して実施すること。 WHO のコメントとして接種率上昇に関連する因子の調査、安全性に関する情報提供などが重点となる。

黄熱病ワクチン接種機関一覧表。

インフルエンザワクチンの最新推薦株一覧表。

インフルエンザ(02 年 2 月):ベルギー、クロアチア、エジプト、フィンランド、イタリア、ラトビア、米合衆国。いずれも A 型(H3N2 主体、一部 B 型)。

2 月 15 日-21 日届出。コレラ:象牙海岸、マラウィ、日本(輸入例)。ペスト:インド

